

タブレット端末を活用して、グループおすすめの本の紹介リーフレットを作ろう

浜松市立豊岡小学校 教諭 菊地 寛
e-maihiroshikikcuhi0203@yahoo.co.jp

キーワード：小学校、言語活動、タブレット、デジタルリーフレット

1. 従来の課題

小学校国語科において、中学年の「書く」領域のねらいは、「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書くとする態度を育てる」である。また、記述に関する事項の中には、「具体的な本や写真など事物を取り上げて説明することが大切」とある。段落相互の関係に注意することは、教科書にある説明文を読むことで気を付けさせている。しかし、子どもたち自身が目的意識や相手意識をもって書く学習活動をするのは中々難しい。また、単純に作文を書かせて終わりにしてしまうことも少なくない。教師が、いかに計画的に、狙いを明確にして、言語活動を仕組むかが課題となるのではないだろうか。

2. 目的・目標

(1) 本の紹介文を書こう

本実践は、3年国語科単元名「本は友だち」の実践である。学習指導要領における国語科「読むこと」(3、4年)の指導事項にある「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を取り上げて指導したものである。その際、「読むこと」の言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること」を具体化した実践である。

だからこそ、書く視点や書き方を指導した上で、児童一人一人にあらすじや感想を書かせ(写真1)、本の内容を理解しているか、要約できているかなどをしっかりと指導をしたところから本単元を始めたのである。グループで友達に何を伝えたいのか、どんな話なのか十分に話し合うことを行った。それから、書く活動に移り、順序立てて書くことをねらった。つまり、アナログの段階で一人一人が本の内容を要約して、あらすじをしっかりと書き、そして、思い通りに作ることができるデジタルの良さを生かして、「本の紹介リーフレット」を仕上げたアナログとデジタルを融合した実践である。



写真1 ストーリーの推敲の様子

(2) デジタルリーフレットを作ろう

本実践では、3人グループに1台のタブレット端末(iPad)を使用することにした。iPadを囲んで、グループで互いに顔見ながら活動ができるので、グループ協働学習に適していると考え、iPadを活用してデジタルリーフレットを作ることにした(写真2)。グループでの協働学習では、撮影をしたり、文字を入力したりと一人一人が役割もち作成することができる。グループの中で互いに協力し合い、話し合いながら、デジタルリーフレット作りを通して、思考力や表現力を育てたいと考えた。

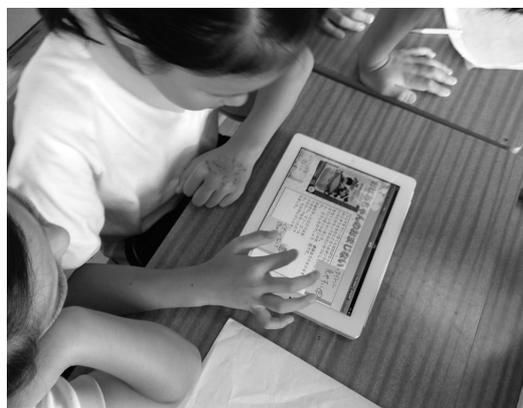


写真2 デジタルリーフレット作成の様子

3. 実践内容

3. 1 本の紹介文を書こう

本実践の前単元の物語教材「海をかつとばせ」(光村 図書)では、ファンタジーの面白さを味わった。本実践では、その学習を生かし、ファンタジーの世界をより味わえるように、ファンタジーの本を図書室で探して読み、友達に紹介する学習活動を行うことにした。読んだ本の中からグループのおすすめの本1冊を相談して選定した。「本の紹介リーフレット」を作るための紹介文の書き方を教科書で学んだ後、教師が用意したプリントに沿ってあらすじと感想を書いた。十分に書けない子もいるが、国語科での学習活動であるため全員が評価基準を達成できるような手立てを講じた。その一つは、プリントの工夫である。プリントには、簡単な例文を載せ、どう書けばいいのか再確認して、書けるようにした。また、推敲しやすいように、行間の幅を広くした原稿用紙を使い、たとえ間違えても行間に修正を書けるようにした。2つ目は、教師の確認である。できる限り教師が目を通して、一人一人に指導をして書き上げさせた。

全員が書いたものをグループで一つにまとめるために、一人一人が書いた文章をグループの中でお互いに読み合い、良いと思う表現のところに赤線を引き合っただ。赤線のところを基にして話し合いをしながら、あらすじと感想をそれぞれ一つにまとめていった。話し合い活動では、本を読み返して内容を確認したり、お

互いの考えを理解するために聞き直したりして、一つの文章にまとめていった。そして、何を伝えたらいいのか、初めて読んだ人でも分かりやすい「本の紹介」になるにはどうしたらよいか、表現の仕方を工夫して仕上げた。(写真3)



写真3 グループで一つにまとめるところ

3. 2 デジタルリーフレットを作ろう

自分たちが伝える内容に合わせて、「本の紹介リーフレット」で使う挿絵を選んだ(写真4)。使う挿絵の枚数の指定はせず、あらすじや感想の内容と合う挿絵を選んだり、本の全ての内容が分かっちゃいけないような挿絵を選んだりとグループで話し合いながら、使用する挿絵を決めた。決めた挿絵はiPadで撮影し、「本の紹介リーフレット」でそのまま使えるようにした。下書きしたあらすじと感想を基に、デジタルリーフレット作成アプリ「E-REPORT COMP」に文書の入力を行った。そして、挿絵の写真を取り入れ、「本の紹介」を仕上げていった。出来上がった作品は、クラス内で2回相互交流を行った。1回目では、うまく伝わらない、分からないといったマイナス要素を中心に製作者に伝えることをした。それを受けて、ブラッシュアップをし、作品を仕上げるためである。そして、2回目の相互交流では、互いに読み合って良さを認め合い、そして、実際の読書活動へと繋げていった。



写真4 使う挿絵を相談する様子

このアプリの機能の中に「付箋機能」があり、教師や相互交流の1回目で互いにアドバイスを書き込んだ。そのアドバイスを受けて、ブラッシュアップをさせた。ブラッシュアップするときには、新しいページに全てをコピーしてから修正させた。そのことで、修正する

前後が比較でき、どう変わったのか、どこをどう変えたらいいのか子どもたちが自身で気付くことができると考えたからである。最後の相互評価では、グループの一人は説明をしたり、評価の内容を聞いたりして、場の工夫をすることで、評価が一方通行にならず、互いの思いや考えを確認し、認め合うことができた(写真5)。



写真5 相互に見合っているところ

4. 成果

グループでの協働学習を進めていくうちに、自分の意見だけを発言し、相手の意見を聞くのではなく、相手の意見に付け足しをしたり、代替案を提案したりと学習指導要領での中学年の国語科で求めている話し合い活動の姿が少しずつ見られるようになってきた。そのことにより、作品の仕上がりも少しずつ変化が見られ、より洗練されるようになっていった。グループでの協働学習では、一人一人が考えをもった上での話し合い活動が多かったが、その場で相手の話を聞き考えたり、自分の意見を言ったりとする活動が常に見られるようになった。まだ十分ではないが学習前に比べて話し合い活動の内容が充実し、発言内容から思考力や判断力が育ってきたと感じることができた。また、本単元の学習のゴールは、決まった正解があるのではなく、試行錯誤しながら作っていき、自分たちが納得できるところまで作らせるようにした。そのことで、児童自身が学ぶ意義や楽しさを感じることができただろう。

学級の児童は、常に喧嘩が耐えなく他人の行動を非難や中傷する児童が多かった。そこで、本単元では、一人一人の良さを認め合うことを学習の柱にしてきた。グループ案を考えるときは、良いと思うところに赤線を引いたり、相手の考えを否定をせず相手の考えを認め合う話し合い活動を行ったりしてきた。そうしたことにより、個人の力の差に関係なく互いの良さを認めたり、相手の考えや言いたいことを理解しようとしたりする児童が多く出てきた。そのため、作品が出来上がったときには、どの子もグループの中でできあがり喜び合っていた。その姿から、本学習活動を通して、グループの子ども同士の間が深まったと感じた。

5. 今後に向けて

本実践では、本の紹介をデジタルリーフレットという形でまとめたが、違うテーマで、同様のデジタルリーフレットを活用できるのか、実践を進めていきたい。